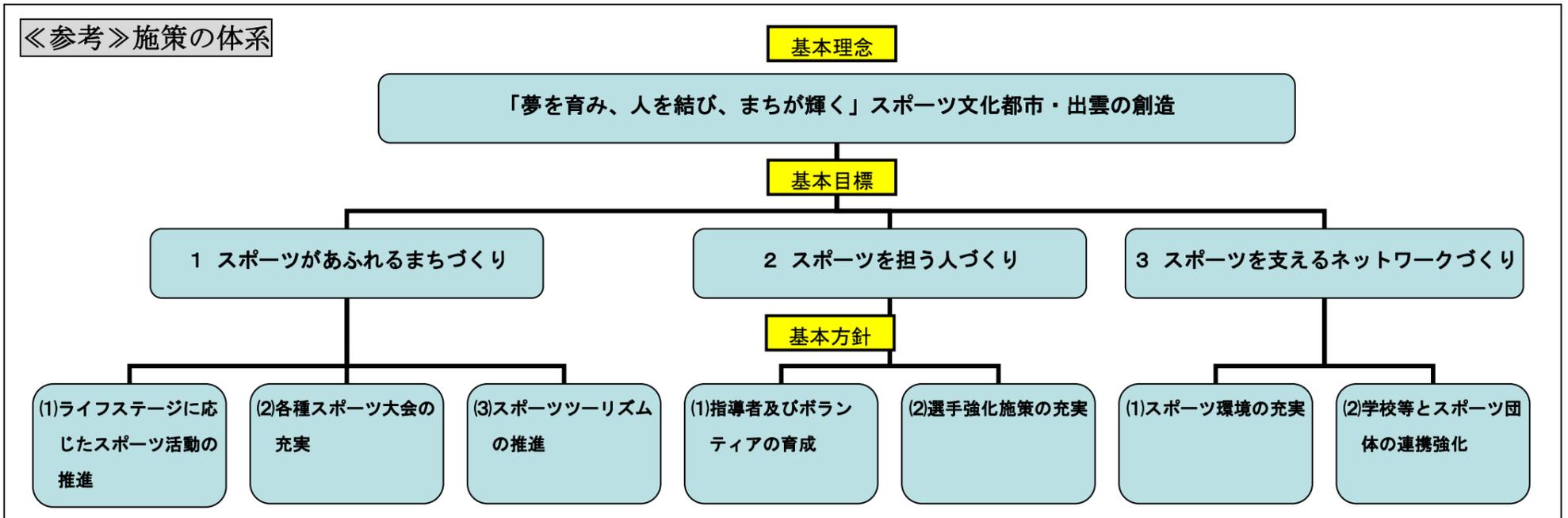


出雲市スポーツ推進計画(H28～R2)に対する意見まとめ



計画全般について

- ・将来の出雲市のスポーツの姿を計画で示すことが必要
- ・スポーツによるまちづくりとして、どういう形で進んでいくかを考える必要がある。
- ・将来の出雲市の具体的なスポーツ像を考える必要がある。
- ・出雲市のスポーツのブランド種目が必要
- ・将来の出雲市のスポーツ未来像、ゴールが定まっていると良い。
- ・将来像の為には、若い世代の意見を取り入れた計画が必要
- ・高齢者の介護予防の活動から発展した自主的な団体、健康づくり委員、スポーツ推進委員、スポーツ関係団体、体育協会、総合型地域スポーツクラブなど、それぞれに合った役割分担を計画に表すと良い。
- ・鬼ごっこやけん玉はスポーツとして考えるのか。スポーツの定義付けをどうするか。

基本目標 1 「スポーツがあふれるまちづくり」

【基本方針 1】ライフステージに応じたスポーツ活動の推進

【基本施策】

- ① 幼年期のスポーツ活動の推進 (未就学児)
- ② 青少年期のスポーツ活動の推進 (小学生)  
青少年期のスポーツ活動の推進 (中学生～高校生)
- ③ 成年期のスポーツ活動の推進 (19歳～64歳)
- ④ 高齢期のスポーツ活動の推進 (65歳以上)
- ⑤ 障がい者スポーツ活動の推進

【未就学児～高校生までのスポーツ活動】

- ・幼少期の施策について、スポーツの裾野を広げるために、保育所、幼稚園、児童クラブなど対象者を幅広くした施策が必要
- ・子どもたちの運動する機会が減っている。
- ・中学生は、運動の好き嫌いが両極端であり、学校体育も、激しい運動というより、いかに体を動かすことを好きになってもらうかが課題
- ・教員の中には専門性の高い指導者もいるが、スポーツの種目によっては未経験者の場合もあり、教員自身も学びながら指導している。
- ・学校側では、地域の指導者がどこにいるかわからない。平日の4時～、土日などに指導してもらうことが現実的に難しく、実際は教員OBの指導者が多い。
- ・部活動において、指導者に対して待遇面や金銭面、必要な資格について適切な条件提示を行えば、手が挙がりやすくなる。
- ・部活動において、生徒の専門性を伸ばすためには、教員が生徒を伸ばしていくことと併せて地域の指導者の専門性を活用するスタイルが必要

#### 【成年期のスポーツ】

- ・高校卒業後にスポーツ活動を継続する人が少ない。

#### 【障がい者スポーツ】

- ・障がい者が社会に出た後にスポーツ活動をする機会を増やす必要がある。
- ・健全者と障がい者が一緒に参加する機会が必要
- ・くにびきマラソンなど、1.5 kmだけでも車いすで参加できないか。

#### 【スポーツの多様性】

- ・価値観の多様化によりスポーツに対する考え方がそれぞれ違う。
- ・二面性、多様性を持った仕組みが必要
- ・スポーツの種類や形態によって、老若男女、参加率が異なる。ニーズの多様化がある。
- ・専門的な指導者はいないが、高校生がダンス同好会で、自発的に活動する事例のような、自主的なスポーツ活動も新しい形

#### 【自治協会行事等】

- ・人口は増えてきているが、自治協会の加入率が悪いため、運動会、地区民体育大会などもできない状態になっている。
- ・各地域のコミュニティセンターが主催する行事もたくさんあるが、参加者の子どもたちは毎回同じで、底辺の拡大にはつながっていない。
- ・自治協会に未加入の場合、参加できない子どものスポーツ行事がある。スポーツ関係のチラシの配布も自治協会に加入している家庭のみで意味がない。

### 【基本方針 2】各種スポーツ大会の充実

#### 【基本施策】

- ①スポーツ団体による各種スポーツ大会の開催
- ②市民参加型スポーツ大会の開催・支援
- ③2020東京オリンピック・パラリンピックを契機としたスポーツの推進
- ④各種スポーツ大会の情報発信

#### 【市民参加型スポーツ大会の開催・支援】

- ・くにびきマラソンなど、1.5 kmだけでも車いすで参加できないか。(再掲)

#### 【2030年国民スポーツ大会】

- ・競技スポーツの競技力向上も外せない。審判の確保においても、競技スポーツの振興は重要
- ・2030年に向け、小学生、中学生の選手の発掘、強化は今から取り組む必要がある。

### 【基本方針 3】スポーツツーリズムの推進

#### 【基本施策】

- ①スポーツイベントの開催・支援
- ②スポーツ活動によるシティセールスの推進
- ③スポーツイベントの情報発信

#### 【スポーツイベントの開催・支援】

- ・くにびきマラソンなど、1.5 kmだけでも車いすで参加できないか。(再掲)

## 基本目標 2 「スポーツを担う人づくり」

### 【基本方針 1】指導者及びボランティアの育成

#### 【基本施策】

- ①指導者の育成・確保
- ②U・Iターンによる優秀な指導者の確保・発掘
- ③スポーツ推進委員の資質向上
- ④スポーツボランティアの確保

#### 【指導者について】

- ・子どもたちがやりたいスポーツの指導者が少ない。
- ・昔あったリーダーバンクのように、資格を取得した指導者を整理し、学校が求める種目の指導者など、きちんとした形で整わないと、子どもたちを任せられない。
- ・子どもたちを指導する人は、責任をもって、いろいろな経験を積んだ指導者であるべき。
- ・高齢化の時代にどのように受け継いでいくかが課題

**【自発的なスポーツ活動】**

- ・専門的な指導者はいないが、高校生がダンス同好会で、自発的に活動する事例のような、自主的なスポーツ活動も新しい形（再掲）

**【基本方針2】選手強化施策の充実**

**【基本施策】**

- ①ジュニア期におけるアスリートの育成強化
- ②トップアスリートの競技力の向上

**【2030年国民スポーツ大会】**

- ・競技スポーツの競技力向上も外せない。審判の確保においても、競技スポーツの振興は重要（再掲）
- ・2030年に向け、小学生、中学生の選手の発掘、強化は今から取り組む必要がある。（再掲）

**基本目標3 「スポーツを支えるネットワークづくり」**

**【基本方針1】スポーツ環境の充実**

**【基本施策】**

- ①スポーツ施設の管理運営と新たな整備促進
- ②スポーツ団体の組織強化と活性化
- ③スポーツ施設に関する情報発信

**【スポーツ施設】**

- ・予約、キャンセル、還付の統一を検討する必要がある。
- ・WEB予約の検討

**【スポーツ団体の組織強化と活性化】**

- ・スポーツ少年団の減少に対してどのように対処するのか。
- ・スポーツ少年団のスポーツ大会の運営等に保護者が携わられるが、保護者の土曜日の休みが少なくなっており、単位団によっては運営が大変なところもある。
- ・アンケート結果では見えにくいですが、総合型地域スポーツクラブも様々な活動を行っている。
- ・団体スポーツが持続可能な手立てが必要
- ・高齢化の時代にどのように受け継いでいくかが課題（再掲）

**【基本方針2】学校等とスポーツ団体の連携強化**

**【基本施策】**

- ①学校等とスポーツ団体との連携
- ②スポーツ団体間における連携の促進
- ③スポーツによる子育て支援
- ④スポーツにおける連携強化と交流の促進

**【連携について】**

- ・学校体育と社会体育との連携、体育協会内での連携、スポーツ団体の連携
- ・幼少期の施策について、スポーツの裾野を広げるために、保育所、幼稚園、児童クラブなど対象者を幅広くした施策が必要（再掲）
- ・子どもたちの運動する機会が減っている。（再掲）